

## きのこリウム

樋口 和智 (gracilis-works)

### きのこリウムとは

“きのこリウム”はキノコをガラス容器内で育てるテラリウムであり、アート作品でもあります。キノコをレイアウト素材の一つと捉え、小さなガラス容器の中に自然を再現する、というコンセプトで作品づくりをしています。

キノコが生えている期間はとても短く、1~2週間ほど。出来上がった情景はとてもはかないものですが、キノコが創り出す造形はとても美しく、神秘的で、人を惹き付けるものがあります。

キノコの部分は子実体と呼ばれ、植物で言う花のようなものです。子実体が枯れてしまっても本体の菌糸体が死んでしまうわけではありません。菌糸体が生きている限り、キノコは複数回出てきます。実際、私の作品においても1年に2~3回のキノコが発生します。

キノコや苔を育て、景色をデザインし、小さなガラス容器の中に自然の一部を切り取ったかのような景色が出来上がった時は感動もひとしお。

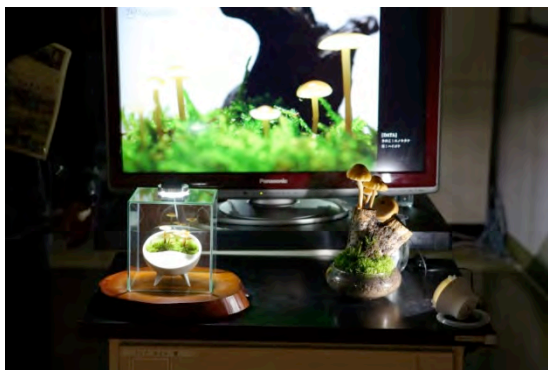
育てる楽しみ、創り出す楽しみ、両方を味わいながら日々作品づくりに勤しんでいます。



### 生きている状態のキノコを『魅せる』

2018年1月よりきのこリウムの展示会を行っています。(今回の共生のひろばで4回目)

エノキタケ、ナメコ、白ヒラタケ、ヌメリスギタケなど、栽培目的で市販されている品種を利用し、会期に合わせて子実体を発生させ、生きた状態のキノコを展示しています。観覧者は本物のキノコであることに驚き、エノキタケなどについてはスーパーで売っている状態のものとはずいぶん違った見た目に驚かれます。



2019年2月11日共生のひろばにて

### 今後の活動展望

今は木材腐朽菌できのこリウムを作成していますが、菌根菌を利用したきのこリウムを作成したいと考えています。

菌根菌は生きた樹木の根っこに共生して生活している菌であるため、これを作成するにはまず水槽内で樹木を育てるところから始めないとけません。

現在比較的大型な水槽 (W30cm×D30cm×H50cm) 内にコナラやカシ、シイの苗木を植えて育成しています。

何年かかるかわかりませんが、菌根菌と樹木が共生する、バランスドアクアリウムのようなきのこリウムを作成することが現在の夢です。